

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 登録実用新案公報(U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3127099号
(U3127099)

(45) 発行日 平成18年11月24日(2006.11.24)

(24) 登録日 平成18年11月1日(2006.11.1)

(51) Int. Cl.

F I

G O 9 F 19/08 (2006.01)

G O 9 F 19/08

G O 9 F 15/00 (2006.01)

G O 9 F 15/00

L

B 4 3 L 1/00 (2006.01)

B 4 3 L 1/00

Z

評価書の請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 13 頁)

(21) 出願番号 実願2006-4263 (U2006-4263)

(22) 出願日 平成18年6月2日(2006.6.2)

(73) 実用新案権者 501148687

株式会社アルタ

岐阜県大垣市和合新町1丁目34番地の2

(74) 代理人 100123021

弁理士 渥美 元幸

(74) 代理人 100063026

弁理士 岩永 方之

(72) 考案者 山口 勝三

岐阜県大垣市和合新町1丁目34番地の2

株式会社アルタ内

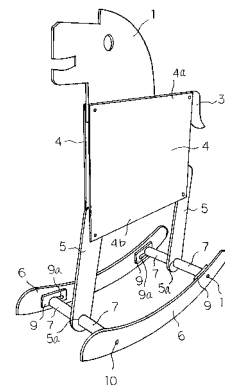
(54) 【考案の名称】 動物形象の広告表示用具

(57) 【要約】

【課題】子供などの興味を著しく喚起せしめ、かつ底部を湾曲の櫓状部材として接地面を増して転倒することがなく、安定した状態で設置できる床置型の動物形象の広告表示用具を提供する。

【解決手段】動物を象った板状部材1と、前後脚部材5、5との間に、文字や絵などを書くことができると共に、紙片、写真などを掲示できるボード部材4、4を正面部と背面部に設ける。その4隅部をビス止めして取り付ける。前後脚部材5、5の下端部に設けた横架する軸棒7、7と、所定間隔に配設され湾曲した櫓状部材6、6とをビス止める。

【選択図】 図1



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】

動物を象った板状部材と、文字や絵などを書くことができると共に、紙片、写真などを掲示できるボード部材と、前後脚部材と、所定間隔に配設し湾曲した櫓状部材とから構成したことを特徴とする動物形象の表示用具および広告用具。

【請求項 2】

前記板状部材、ボード部材、前後脚部材、櫓状部材がビスにより組み立てられていることを特徴とする請求項 1 に記載の動物形象の表示用具および広告用具。

【請求項 3】

前記ボード部材は、正面部と背面部に設けられていることを特徴とする請求項 1 または 2 に記載の動物形象の表示用具および広告用具。 10

【請求項 4】

前記櫓状部材の前後内側面に、該櫓状部材間に横架する軸棒の一端当接部に揺動を阻止するストッパー片が設けられていることを特徴とする請求項 1 ～ 3 のいずれか 1 項に記載の動物形象の表示用具および広告用具。

【請求項 5】

動物を象った板状部材が、馬、犬、猫、熊、鹿、牛などの四足獣から選ばれた板状部材である請求項 1 ～ 4 のいずれか 1 項に記載の動物形象の表示用具および広告用具。

20

【考案の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本考案は、動物を象った床置型の表示用具および広告用具に係るものであり、さらに詳しくは、レストラン、カフェ、ブティック、専門店の店頭や店内に置いて、ボード部材にインフォメーションやメニューなどを手書きしたり、あるいは各種イベント会場に設置して写真やパンフレットなどを貼りつける動物形象の表示用具および広告用具に関するものである。 30

【背景技術】

【0002】

従来から、レストラン、カフェ、ブティックや各種の専門店の店頭には、イーゼル黒板に、例えば、営業時間や定休日のようなインフォメーションやメニュー、価格などを表示したり、あるいは商品の写真パネルをイーゼルの支持部で支持して宣伝広告したりしている。

【0003】

もともとイーゼルは、絵を描く時のキャンパスを支持するものとして考えられたものであり、最近では、上記のような表示用具や広告用具として使用するばかりでなく、絵画、写真、書などのような美術工芸作品の展示具としても使用するようになってきている。 40

【0004】

そのイーゼルは、一般的に、図 5 に示すようなものが知られている。すなわち、左右一対の前部脚杆 11, 11 を下端部が広がるように配し、その上下部に上杆 12 と下杆 13 を連結し、上杆 12 に後部脚杆 14 を開閉自在に取り付けると共に、前部脚杆 11, 11 の前部に L 字状の支持台 15 を備えて形成されており、支持台 15 に黒板、掲示用パネル、美術工芸作品などの表示板や広告板 16 を支持して使用されている。（例えば、特許文献 1、2） 50

【0005】

【特許文献1】登録実用新案第3105390号

【特許文献2】特開2001-327350号公報

【考案の開示】

【考案が解決しようとする課題】

【0006】

しかしながら、このイーゼルは前述のとおり、木材を枠組みして構成されたものであり、接地面と接するのは前部脚杆11、11と後部脚杆14の底面だけであり、接地面積が少なく、立設状態が不安定で外力を受けると直ぐに転倒すると言った問題点があった。

【0007】

また、イーゼルに支持された表示板や広告板は正面部に設けられているため、背面からは見えないばかりでなく、限られた表示や広告しかできないと言った問題点があった。さらに、このイーゼルは、店頭設置を主目的としているため、通行者に商品などをアピールして目を惹くようにする必要があるが、従来の単なる木材を枠組みしたものでは面白味や美観性に劣り、特に子供などの興味を著しく喚起せしめる効果がないと言った問題点があった。

【0008】

本考案は、上記のような問題点を解決することを課題として開発されたもので、動物を象ったユニークな形状とすることにより、子供などの興味を著しく喚起せしめ得ると共に、ボード部材を正面部と背面部に設けて多くの情報を表示、広告できると共に、底部を湾曲状の櫓状部材とすることにより、接地面が増えて転倒することがなく、常に安定した状態で設置できる床置型の表示用具および広告用具を提供するものである。

【課題を解決するための手段】

【0009】

上記の課題を解決し、その目的を達成する手段として、本考案は、動物を象った板状部材と、文字や絵などを書くことができると共に、紙片、写真などを掲示できるボード部材と、前後脚部材と、所定間隔に配設し湾曲した櫓状部材とからなる動物形象の表示用具および広告用具を開発し、採用した。

【0010】

上記の動物形象の表示用具および広告用具において、前記板状部材、ボード部材、前後脚部材、櫓状部材がビスにより組み立てられている動物形象の表示用具および広告用具、および前記ボード部材は、正面部と背面部に設けられている動物形象の表示用具および広告用具、および前記櫓状部材の前後内側面に、該櫓状部材間に横架する軸棒の一端当接部に揺動を阻止するストッパー片が設けられている動物形象の表示用具および広告用具、および動物を象った板状部材が、馬、犬、猫、熊、鹿、牛などの四足獣から選ばれた板状部材である動物形象の表示用具および広告用具を開発し、採用した。

【考案の効果】

【0011】

請求項1記載の動物形象の表示用具および広告用具によれば、動物を象った板状部材により、子供などの興味を著しく喚起せしめる効果があり、ボード部材にインフォメーションやメニューなどを手書きしたり、商品写真やパンフレットなどを貼り付けると目立って表示用具および広告用具の機能を果たすことができる。また、底部を櫓状部材に形成してあるから、床掃除などで移動させる時に持ち上げなくてもよく、滑らせて移動できる便利さがある。さらに、接地面との接地面積が増えて安定した状態で立設する。また、揺動させることにより、これまでにない動きのあるユニークな動物形象の表示用具および広告用具になる。

【0012】

請求項2記載の動物形象の表示用具および広告用具によれば、前記請求項1記載の効果に加えて、ビスだけの組み立てになるから、専用道具など必要としなく、子供や婦女子でも簡単に組み立てることができる。

10

20

30

40

50

【0013】

請求項3記載の動物形象の表示用具および広告用具によれば、前記請求項1および2の効果に加えて、正面部と背面部にボード部材があることから、正面と背面方向から情報を見ることができると共に、多くの情報を表示および広告することができる。

【0014】

請求項4記載の動物形象の表示用具および広告用具によれば、前記請求項1、2および3の効果に加えて、揺動を阻止することができ通常の表示用具および広告用具として使用できる。

【0015】

請求項5記載の動物形象の表示用具および広告用具によれば、前記請求項1、2、3および4の記載の効果に加えて、馬、犬、猫、熊、鹿、牛など好みの動物形象の表示用具および広告用具が得られる。

【考案を実施するための最良の形態】

【0016】

以下に、本考案の実施形態を添付図面に基づいて説明すれば、本考案に係る動物形象の表示用具および広告用具は、大別して馬を象った上方の板状部材1と、表示面や広告面になる胴体部のボード部材4、4と、前後脚部材5、5と、所定間隔に配して接地面と接する湾曲状の橇状部材6、6とで構成されている。

【0017】

上方の板状部材1は、天然木材を薄く切削して得た単板を複数枚接着した合板や天然木材を切断加工して馬を象っているが、馬に限定されるものでなく、犬、猫、鹿、熊、牛などの四足獣でもよく、その動物を象って板状部材1を切断形成してあり、この実施形態の馬の場合には、首から一体につながる細い胴部2と尻尾3を一体的に連設して形成している。

【0018】

胴体部を形成するボード部材4、4は、正面部と背面部に設けられる薄い横長の黒板やホワイトボードなどで、チョークやマーカーペンの筆記具で書き込み、消去が自由にできると共に、押しピンや接着テープなどで紙片、写真などを張り付けることが可能であり、その上辺4aを前記板状部材1の胴部2の上辺2aに揃えたと共に、下辺4bは前後脚部材5、5の上部が隠れる位置とし、4隅部をそれぞれビス止めされて取り付けられている。

【0019】

前後脚部材5、5は、その上端部がボード部材4、4によって挟まれビス止めされていると共に、下端部は前後脚部材5、5の下端部に穿設された通孔5a、5aに橇状部材6、6間に横架する左右2個の軸棒7、7を連結する螺子杆8を挿通して連結してある。

【0020】

両端部が上方に湾曲する橇状部材6、6は、所定幅の間隔を存して平行に配設してあり、両端部は接地面と接することなく、中央部分が接地面と接するように形成されており、揺動可能になっている。

【0021】

9は橇状部材6、6の揺動を阻止するストッパー片で、矩形状に形成され中央部の長手方向にビス10の嵌る長孔9aが穿設されており、通常は橇状部材6、6の内側面で、軸棒7、7の一端面が当接する部分に橇状部材6、6の長さ方向と平行にビス止めされている。この状態においては、湾曲する橇状部材6、6の中央部分が接地面と接し揺動可能になっているが、ビス10を緩めてストッパー片9を下方に90度回転させてビス10を締め付けると、図2に示すように、ストッパー片9が接地面と接することになり、橇状部材6、6が接地面から浮き上がり揺動しないようになっている。

【0022】

このように構成した本考案の実施形態の使用状態を作用、効果と共に説明すると、板状部材1、ボード部材4、4、前後脚部材5、5、橇状部材6、6の各部材をビスだけで簡

10

20

30

40

50

単に組み立てることができる。組み立てられた表示用具および広告用具をレストランやカフェなどの店頭や店内に置き、正面部と背面部のボード部材に営業時間や定休日のインフォメーションやメニュー、価格などを筆記具で手書きできるばかりでなく、写真、パンフレットなどを貼り付けることができ、従来の片面のみのボード部材と比べて表示や広告できる面積が広くなると共に、正面と背面の両方から見ることで便利になる。

【0023】

また、この表示用具および広告用具が馬を表していることから、通行中の顧客にアピールして目を惹くことになり、特に子供などの興味を著しく喚起せしめる効果がある。さらに、底部を櫓状部材にしてあるから、床掃除する時、持ち上げて運ぶ必要がなく、滑らせて移動できるので至便であり、かつ、中央部分が接地面となって転倒するような虞がなく、安定して立設できる。また、揺動可能でこれまでにないユニークな表示用具および広告用具として有益になる。さらに、揺動しないようにするには、ストッパー片9を回動して接地面にすればよく、揺動、固定どちらでも自由に選択できる便利さがある。

10

【0024】

以上、本考案の主要な実施の形態について説明したが、本考案は上記の実施の形態に限定されるものではなく、本考案の目的を達成でき、かつ本考案の要旨を逸脱しない範囲内で種々設計変更が可能であり、それらも全て本考案の範囲内に包含されるものである。

【産業上の利用可能性】

【0025】

本考案は、各種店舗用の表示用具および広告用具に限らず、各種イベント会場の出入口や結婚式場など多数の人が集まる場所に設置して、表示用具および広告用具として使用する事ができるものである。

20

【図面の簡単な説明】

【0026】

【図1】本考案の動物形象の表示用具および広告用具を示す斜視図である。

【図2】ストッパー片の使用時の簡略斜視図である。

【図3】要部の簡略断面図である。

【図4】組み立て前の各部材の正面図である。

【図5】従来のイーゼルを示す斜視図である。

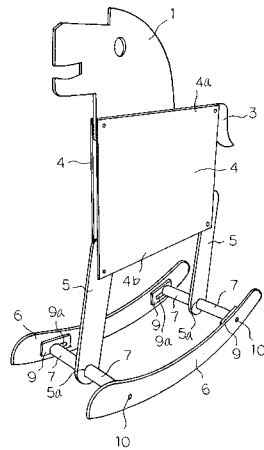
【符号の説明】

30

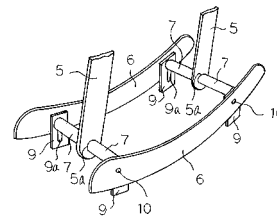
【0027】

- 1 板状部材
- 4 ボード部材
- 5 前後脚部材
- 6 櫓状部材
- 7 軸棒
- 9 ストッパー片

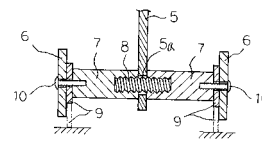
【図 1】



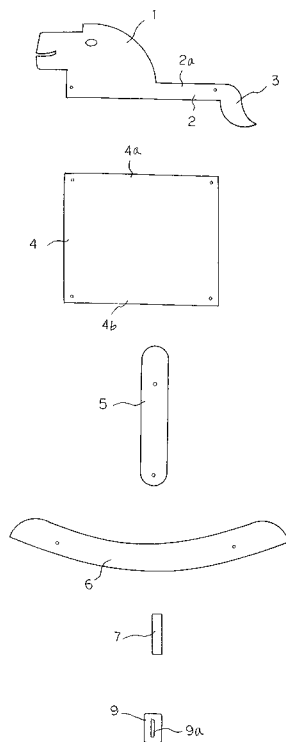
【図 2】



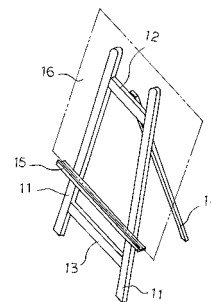
【図 3】



【図 4】



【図 5】



【手続補正書】

【提出日】平成18年8月21日(2006.8.21)

【手続補正1】

【補正対象書類名】実用新案登録請求の範囲

【補正対象項目名】請求項1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項1】

動物を象った板状部材と、前後脚部材との間に、文字や絵などを書くことができると共に、紙片、写真などを掲示できるボード部材を正面部と背面部に設け、その4隅部をビス止めして取り付け、かつ前後脚部材の下端部に設けた横架する軸棒と、所定間隔に配設され湾曲した櫓状部材とをビス止めしたことを特徴とする動物形象の広告表示用具。

【手続補正2】

【補正対象書類名】実用新案登録請求の範囲

【補正対象項目名】請求項2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項2】

前記櫓状部材の前後内側面に該櫓状部材間に横架する軸棒の一端当接部に揺動を阻止するストッパー片を設けたことを特徴とする請求項1に記載の動物形象の広告表示用具。

【手続補正3】

【補正対象書類名】実用新案登録請求の範囲

【補正対象項目名】請求項3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項3】

動物を象った板状部材が、馬、犬、猫、熊、鹿、牛などの四足獣から選ばれた板状部材である請求項1または2に記載の動物形象の広告表示用具。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0001

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0001】

本考案は、動物を象った床置型の広告表示用具に係るものであり、さらに詳しくは、レストラン、カフェ、ブティック、専門店の店頭や店内に置いて、ボード部材にインフォメーションやメニューなどを手書きしたり、あるいは各種イベント会場に設置して写真やパンフレットなどを貼りつける動物形象の広告表示用具に関するものである。

【手続補正6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0008】

本考案は、上記のような問題点を解決することを課題として開発されたもので、動物を象ったユニークな形状とすることにより、子供などの興味を著しく喚起せしめ得ると共に、ボード部材を正面部と背面部に設けて多くの情報を広告表示できると共に、底部を湾曲状の櫓状部材とすることにより、接地面が増して転倒することがなく、常に安定した状態で設置できる床置型の広告表示用具を提供するものである。

【手続補正7】

【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0009
【補正方法】変更
【補正の内容】
【0009】

上記の課題を解決し、その目的を達成する手段として、本考案は、動物を象った板状部材と、前後脚部材との間に、文字や絵などを書くことができると共に、紙片、写真などを掲示できるボード部材を正面部と背面部に設け、その4隅部をビス止めして取り付け、かつ前後脚部材の下端部に設けた横架する軸棒と、所定間隔に配設され湾曲した櫓状部材とをビス止めしたことを特徴とする動物形象の広告表示用具を開発し、採用した。

【手続補正8】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0010
【補正方法】変更
【補正の内容】
【0010】

上記の動物形象の広告表示用具において、前記櫓状部材の前後内側面に該櫓状部材間に横架する軸棒の一端当接部に揺動を阻止するストッパー片を設けたことを特徴とする動物形象の広告表示用具、および動物を象った板状部材が、馬、犬、猫、熊、鹿、牛などの四足獣から選ばれた板状部材である動物形象の広告表示用具を開発し、採用した。

【手続補正9】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0011
【補正方法】変更
【補正の内容】
【0011】

請求項1記載の動物形象の広告表示用具によれば、動物を象った板状部材により、子供などの興味を著しく喚起せしめる効果があり、ボード部材にインフォメーションやメニューなどを手書きしたり、商品写真やパンフレットなどを貼り付けると目立って広告表示用具の機能を果たすことができる。また、底部を櫓状部材に形成してあるから、床掃除などで移動させる時に、持上げなくてもよく滑らして移動できる便利さがある。さらに、接地面との接地面積が増して安定した状態で立設する。また、揺動させることにより、これまでにない動きのあるユニークな動物形象の広告表示用具になる。また、この動物形象の広告表示用具は、ビスだけの組み立てになるから、専用道具など必要としなく、子供や婦女子でも簡単に組み立てることができる。さらに、正面部と背面部にボード部材があることから、正面と背面方向から情報を見ることができると共に、多くの情報を広告表示することができる。

【手続補正10】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0012
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正11】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0013
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正12】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0014

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0014】

請求項2記載の動物形象の広告表示用具によれば、前記請求項1の効果に加えて、櫓状部材の揺動を阻止することができ通常の広告表示用具として使用できる。

【手続補正13】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0015

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0015】

請求項3記載の動物形象の広告表示用具によれば、前記請求項1、2の記載の効果に加えて、馬、犬、猫、熊、鹿、牛など好みの動物形象の広告表示用具が得られる。

【手続補正14】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0016

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0016】

以下に、本考案の実施形態を添付図面に基づいて説明すれば、本考案に係る動物形象の広告表示用具は、大別して馬を象った上方の板状部材1と、表示面や広告面になる胴体部のボード部材4、4と、前後脚部材5、5と、所定間隔に配して接地面と接する湾曲状の櫓状部材6、6とで構成されている。

【手続補正15】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0022

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0022】

このように構成した本考案の実施形態の使用状態を作用、効果と共に説明すると、板状部材1、ボード部材4、4、前後脚部材5、5、櫓状部材6、6の各部材をビスだけで簡単に組み立てることができる。組み立てられた広告表示用具をレストランやカフェなどの店頭や店内に置き、正面部と背面部のボード部材に営業時間や定休日のインフォメーションやメニュー、価格などを筆記具で手書きできるばかりでなく、写真、パンフレットなどを貼り付けることができ、従来の片面のみのボード部材と比べて表示や広告できる面積が広くなると共に、正面と背面の両方から見ることで便利になる。

【手続補正16】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0023

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0023】

また、この広告表示用具が馬を表していることから、通行中の顧客にアピールして目を惹くことになり、特に子供などの興味を著しく喚起せしめる効果がある。さらに、底部を櫓状部材にしてあるから、床掃除する時、持ち上げて運ぶ必要がなく、滑らして移動できるので至便であり、かつ、中央部分が接地面となって転倒するような虞がなく、安定して立設できる。また、揺動可能でこれまでにないユニークな広告表示用具として有益になる。さらに、揺動しないようにするには、ストッパー片9を回動して接地面にすればよく、揺動、固定どちらでも自由に選択できる便利さがある。

【手続補正17】

【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0025
【補正方法】変更
【補正の内容】
【0025】

本考案は、各種店舗用の広告表示用具に限らず、各種イベント会場の出入口や結婚式場など多数の人が集まる場所に設置して、広告表示用具として使用する事ができるものである。

【手続補正18】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0026
【補正方法】変更
【補正の内容】
【0026】

【図1】本考案の動物形象の広告表示用具を示す斜視図である。

【図2】ストッパー片の使用時の簡略斜視図である。

【図3】要部の簡略断面図である。

【図4】組み立て前の各部材の正面図である。

【図5】従来のイーゼルを示す斜視図である。

【手続補正書】
【提出日】平成18年9月22日(2006.9.22)
【手続補正1】
【補正対象書類名】実用新案登録請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【実用新案登録請求の範囲】
【請求項1】

動物を象った板状部材と、前後脚部材との間に、文字や絵などを書くことができると共に、紙片、写真などを掲示できるボード部材を正面部と背面部に設け、その4隅部をビス止めして取り付け、かつ前後脚部材の下端部に設けた横架する軸棒と、所定間隔に配設され湾曲した櫓状部材とをビス止めしたことを特徴とする動物形象の広告表示用具。

【請求項2】
前記櫓状部材の前後内側面に該櫓状部材間に横架する軸棒の一端当接部に揺動を阻止するストッパー片を設けたことを特徴とする請求項1に記載の動物形象の広告表示用具。

【請求項3】
動物を象った板状部材が、馬、犬、猫、熊、鹿、牛などの四足獣から選ばれた板状部材である請求項1または2に記載の動物形象の広告表示用具。

【手続補正2】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【考案の詳細な説明】
【技術分野】
【0001】

本考案は、動物を象った床置型の広告表示用具に係るものであり、さらに詳しくは、レストラン、カフェ、ブティック、専門店の店頭や店内に置いて、ボード部材にインフォメーションやメニューなどを手書きしたり、あるいは各種イベント会場に設置して写真やパンフレットなどを貼りつける動物形象の広告表示用具に関するものである。

【背景技術】

【0002】

従来から、レストラン、カフェ、ブティックや各種の専門店の店頭には、イーゼル黒板に、例えば、営業時間や定休日のようなインフォメーションやメニュー、価格などを表示したり、あるいは商品の写真パネルをイーゼルの支持部で支持して宣伝広告したりしている。

【0003】

もともとイーゼルは、絵を描く時のキャンパスを支持するものとして考えられたものであり、最近では、上記のような表示用具や広告用具として使用するばかりでなく、絵画、写真、書などのような美術工芸作品の展示具としても使用するようになってきている。

【0004】

そのイーゼルは、一般的に、図5に示すようなものが知られている。すなわち、左右一対の前部脚杆11，11を下端部が広がるように配し、その上下部に上杆12と下杆13を連結し、上杆12に後部脚杆14を開閉自在に取り付けると共に、前部脚杆11，11の前部にL字状の支持台15を備えて形成されており、支持台15に黒板、掲示用パネル、美術工芸作品などの表示板や広告板16を支持して使用されている。（例えば、特許文献1、2参照）

【0005】

【特許文献1】登録実用新案第3105390号公報

【特許文献2】特開2001-327350号公報

【考案の開示】

【考案が解決しようとする課題】

【0006】

しかしながら、このイーゼルは前述のとおり、木材を枠組みして構成されたものであり、接地面と接するのは前部脚杆11，11と後部脚杆14の底面だけであり、接地面積が少なく、立設状態が不安定で外力を受けると直ぐに転倒すると言った問題点があった。

【0007】

また、イーゼルに支持された表示板や広告板は正面部に設けられているため、背面からは見えないばかりでなく、限られた表示や広告しかできないと言った問題点があった。さらに、このイーゼルは、店頭設置を主目的としているため、通行者に商品などをアピールして目を惹くようにする必要があるが、従来の単なる木材を枠組みしたものでは面白味や美観性に劣り、特に子供などの興味を著しく喚起せしめる効果がないと言った問題点があった。

【0008】

本考案は、上記のような問題点を解決することを課題として開発されたもので、動物を象ったユニークな形状とすることにより、子供などの興味を著しく喚起せしめ、かつボード部材を正面部と背面部に設けて多くの情報を広告表示できると共に、底部を湾曲状の櫓状部材とすることにより、接地面が増して転倒することがなく、常に安定した状態で設置できる床置型の広告表示用具を提供するものである。

【課題を解決するための手段】

【0009】

上記の課題を解決し、その目的を達成する手段として、本考案は、動物を象った板状部材と、前後脚部材との間に、文字や絵などを書くことができると共に、紙片、写真などを掲示できるボード部材を正面部と背面部に設け、その4隅部をビス止めして取り付け、かつ、前後脚部材の下端部に設けた横架する軸棒と、所定間隔に配設され湾曲した櫓状部材とをビス止めしたことを特徴とする動物形象の広告表示用具を開発し、採用した。

【0010】

上記の動物形象の広告表示用具において、前記櫓状部材の前後内側面に該櫓状部材間に横架する軸棒の一端当接部に揺動を阻止するストッパー片を設けたことを特徴とする動物形象の広告表示用具、および動物を象った板状部材が、馬、犬、猫、熊、鹿、牛などの四足

獣から選ばれた板状部材である動物形象の広告表示用具を開発し、採用した。

【考案の効果】

【0011】

請求項1記載の動物形象の広告表示用具によれば、動物を象った板状部材により、子供などの興味を著しく喚起せしめる効果があり、ボード部材にインフォメーションやメニューなどを手書きしたり、商品写真やパンフレットなどを貼り付けると目立って広告表示用具の機能を果たすことができる。また、底部を櫓状部材に形成してあるから、床掃除などで移動させる時に、持上げなくてもよく滑らして移動できる便利さがある。さらに、接地面との接地面積が増して安定した状態で立設する。また、揺動させることにより、これまでにない動きのあるユニークな動物形象の広告表示用具になる。また、この動物形象の広告表示用具は、ビスだけでの組み立てになるから、専用道具など必要としなく、子供や婦女子でも簡単に組み立てることができる。さらに、正面部と背面部にボード部材があることから、正面と背面方向から情報を見ることができると共に、多くの情報を広告表示することができる。

【0012】

請求項2記載の動物形象の広告表示用具によれば、前記請求項1の効果に加えて、櫓状部材の揺動を阻止することができ通常の広告表示用具として使用できる。

【0013】

請求項3記載の動物形象の広告表示用具によれば、前記請求項1、2の記載の効果に加えて、馬、犬、猫、熊、鹿、牛など好みの動物形象の広告表示用具が得られる。

【考案を実施するための最良の形態】

【0014】

以下に、本考案の実施形態を添付図面に基づいて説明すれば、本考案に係る動物形象の広告表示用具は、大別して馬を象った上方の板状部材1と、表示面や広告面になる胴体部のボード部材4、4と、前後脚部材5、5と、所定間隔に配して接地面と接する湾曲状の櫓状部材6、6とで構成されている。

【0015】

上方の板状部材1は、天然木材を薄く切削して得た単板を複数枚接着した合板や天然木材を切断加工して馬を象っているが、馬に限定されるものでなく、犬、猫、鹿、熊、牛などの四足獣でもよく、その動物を象って板状部材1を切断形成してあり、この実施形態の馬の場合には、首から一体につながる細い胴部2と尻尾3を一体的に連設して形成してある。

【0016】

胴体部を形成するボード部材4、4は、正面部と背面部に設けられる薄い横長の黒板やホワイトボードなどで、チョークやマーカーペンの筆記具で書き込み、消去が自由にできると共に、押しピンや接着テープなどで紙片、写真などを張り付けることが可能であり、その上辺4aを前記板状部材1の胴部2の上辺2aに揃えたと共に、下辺4bは前後脚部材5、5の上部が隠れる位置とし、4隅部をそれぞれビス止めされて取り付けられている。ボード部材4、4の横幅は尻尾3が見える幅に形成されている。

【0017】

前後脚部材5、5は、その上端部がボード部材4、4によって挟まれビス止めされていると共に、下端部は前後脚部材5、5の下端部に穿設された通孔5a、5aに櫓状部材6、6間に横架する左右2個の軸棒7、7を連結する螺子杆8を挿通して連結してある。

【0018】

両端部が上方に湾曲する櫓状部材6、6は、所定幅の間隔を存して平行に配設してあり、両端部は接地面と接することなく、中央部分が接地面と接するように形成されており、揺動可能になっている。

【0019】

9は櫓状部材6、6の揺動を阻止するストッパー片で、矩形状に形成され中央部の長手方向にビス10の嵌る長孔9aが穿設されてあり、通常は櫓状部材6、6の内側面で、軸

棒 7, 7 の一端面が当接する部分に櫓状部材 6, 6 の長さ方向と平行にビス止めされている。この状態においては、湾曲する櫓状部材 6, 6 の中央部分が接地面と接し揺動可能になっているが、ビス 10 を緩めてストッパー片 9 を下方に 90 度回動させてビス 10 を締め付けると、図 2 に示すように、ストッパー片 9 が接地面と接することになり、櫓状部材 6, 6 が接地面から浮き上がり揺動しないようになっている。

【0020】

このように構成した本考案の実施形態の使用状態を作用、効果と共に説明すると、板状部材 1、ボード部材 4, 4、前後脚部材 5, 5、櫓状部材 6, 6 の各部材をビスだけで簡単に組み立てることができる。組み立てられた広告表示用具をレストランやカフェなどの店頭や店内に置き、正面部と背面部のボード部材に営業時間や定休日のインフォメーションやメニュー、価格などを筆記具で手書きできるばかりでなく、写真、パンフレットなどを貼り付けることができ、従来の片面のみのボード部材と比べて表示や広告できる面積が広くなると共に、正面と背面の両方から見ることで便利になる。

【0021】

また、この広告表示用具が馬を表していることから、通行中の顧客にアピールして目を惹くことになり、特に子供などの興味を著しく喚起せしめる効果がある。さらに、底部を櫓状部材にしてあるから、床掃除する時、持ち上げて運ぶ必要がなく、滑らして移動できるので至便であり、かつ、中央部分が接地面となって転倒するような虞がなく、安定して立設できる。また、揺動可能でこれまでにないユニークな広告表示用具として有益になる。さらに、揺動しないようにするには、ストッパー片 9 を回動して接地面にすればよく、揺動、固定どちらでも自由に選択できる便利さがある。

【0022】

以上、本考案の主要な実施の形態について説明したが、本考案は上記の実施の形態に限定されるものではなく、本考案の目的を達成でき、かつ本考案の要旨を逸脱しない範囲内で種々設計変更が可能であり、それらも全て本考案の範囲内に包含されるものである。

【産業上の利用可能性】

【0023】

本考案は、各種店舗用の広告表示用具に限らず、各種イベント会場の出入口や結婚式場など多数の人が集まる場所に設置して、広告表示用具として使用する事ができるものである。

【図面の簡単な説明】

【0024】

【図 1】本考案の動物形象の広告表示用具を示す斜視図である。

【図 2】ストッパー片の使用時の簡略斜視図である。

【図 3】要部の簡略断面図である。

【図 4】組み立て前の各部材の正面図である。

【図 5】従来のイーゼルを示す斜視図である。

【符号の説明】

【0025】

- 1 板状部材
- 4 ボード部材
- 5 前後脚部材
- 6 櫓状部材
- 7 軸棒
- 9 ストッパー片